

仁比議員公表 大阪入管 酒気帯び診察報告書

冷静さ欠く医師

呼気検査 幹部も同席

大阪出入国在留管理局（大阪入管）の常勤医師が酒気帯び診察した経緯を記した内部報告書（1月21日付）を、日本共産党の山田勝平議員が6日、公表しました。報告書は、収容者の待遇にあたる入国情報官がまとめたもの。大阪入管の幹部らが医師の呼気がアルコールを検出した現場に立ち会っていたことを具体的に記しています。入管庁本庁は入管法改悪案を審議する国会との情報を隠していました。報告書の内容を詳報します。（取材班）

国会に情報隠す

●普段と違う

大阪入管の常勤医師による酒気帯び診察の疑いが発覚したのは今年1月20日。発端は報告書を書いた入国情報官が医師の不適な行動に気付いたことでした。

同日午後3時7分、医師が就席して診療事務室に入ります。医師は高い音色で「みんなひとつづつ買ってきたの」と職員に菓子や即席麺を配りました。着きと冷静さを欠き、歩き方はいつもより強引、すり足でした。

●飲酒答へず

診察終了後、首席入国情報官、統括入国情報官の立会いで検査を開始します。

1回目の検査で呼気アルコールを医師から検出。検査結果は上院に相談。

異常に様子に気付いた入国情報官はその場でいた看護師と情報を共有します。

入国情報官は上院に相談。



大阪入管常勤医師の呼気アルコール検査結果等についての報告

大阪入管次長でもある診療室長から、診療室職員の5人全員がアルコール濃度検査をするよう指示を受けます。

他方、看護師は、診療班の上席入国情報官専門官に医師の状況を伝え、対応方針を検討。一人目の中国人受

容者の診察状況をみて診療を継続するかどうかを決める

としました。

同24分、医師が診療を開始します。まぶたは重だけでも、収容者に猫なで声で健

康診断の結果を告知。この

様子を見て、ほかの診療は

宮は情備監理官の同席のもと、診療室長に検査結果を報告。診療室長は、医師に業務を中断し年休をとらせ帰宅させるよう指示します。

●欠勤扱いに

一首席、統括入国情報官は情備監理官の同席のもと、診療室長に検査結果を報告。診療室長は、医師に業務を中断し年休をとらせ帰宅させるよう指示します。

同38分、首席、統括入国情報官が診療事務室に入ります。

医師はすでに私服姿で、医師はすでに私服姿で

した。診療室長の指示を伝

えると医師は「こんな失礼なことを」口頭につつ返事をよどめます。統括入国情報官が年休取得を促しましたが、「無断欠勤でもいい。出さない」と述べ退室しました。報告を受けた診

め、再検査を依頼。医師は「何がおかしいんですか」と繰り返し発言します。

2回目の検査では、0.22%を検出。念のために行つた3回目では0.39%を確認しました。入国情報官は4回目の測定時に呼気

にアルコール臭を感じます。首席入国情報官が飲酒したかどうか尋ねました。数値にはのつきがあるため、4回目の検査を依頼しましたが「任意なんですよ。じゃお振否します」と断りました。